

女性の評価は生活能力か

おおらかで自由な愛の形 ピナトウボ少数民族アエタ

[共同] フィリピンのルソン島は雨期の真っただ中だった。ぬれたバナナの葉が鮮やかな緑に輝き、空気はひんやりとしていた。スリップク経済特区から車で西へ約1時間。訪ねた山岳少数民族アエタの村パライバルには、小さな山の斜面に沿つて竹で造った納屋のようないい家が50棟ほど並ぶ。彼らはちょうど20年前のピナトウボ山の大噴火で低地に降りた山の民だ。

伝統の狩猟用具などを土産物として売り、ほとぼそと暮らしを立てている者がほとんどだつた。山の暮らしで鍛えられたせいか、小柄な年配者も身體をしている。若い女性は「夫のいない頑強そうな妻」だといふ。しかし、小柄な年配者も「夫のいない頑強そうな妻」だといふ。若い女性は「夫のいない頑強そうな妻」だといふ。

相手は子連れ女性に限らず、「結婚する」と言い切る。子どもがたくさんの女性は「夫のいない頑強な妻」だといふ。若い女性は「夫のいない頑強な妻」だといふ。

褐色の胸板をさらして歩く37歳のルディ・ソロモ

実際に彼は7人の子がいた8歳以上のペララと10年前に結婚している。

16歳で一度、同世

16

「薬物依存の危険知つて」

尾崎ミルトン医師が警告

希望団体には無料講演も



サンタクルス病院元院長の尾崎氏

【薬物依存は国内で増えている病気の一つ。中でもクラッキは最も体に害を与える】。そう注意を喚起するのは聖州イタペセリカ・ダ・セーラにあるサンタモニカ病院の理事で、サンタ

クリス病院元院長の尾崎ミルトン氏(59、三世)だ。

尾崎氏は調整役を務め

る。

同病院の精神科医らが

約1時間講演し、大麻、

コカイン、アルコール、

煙草の影響についても言及。

保護者が子供に薬物

についてどのように話をすべきかの指導もある。

同病院では2010年

から、120床を割り当

てるなど薬物依存による

精神障害で入院する患者

への治療に入れてお

り、依存から立ち直った

カウンセラーや精神科

医、救急医療に携わる臨

床医からなる150人以

上の協力者を含む医師集

団がいる。

世界保健機関(OM

S)のデータによると伯

内だけ約600万人

のクラッキ常用者がお

り、麻薬対策局(Sen

ad)の研究結果では

治療を受け効果が現れて

いる。治療を受けながら

も常用し続けているのが

それぞれ3割。その他は

見られる。また85

組んでいる。

招待客が一人ひとり紹

介された後、アトラク

ションとしてテレビ出演

経験もある9歳の歌手、

クニヨシ・メリッサさん

が着物姿で登場し「瀬戸

の花嫁」などを熱唱。

西本氏は、「希望の家」の上原

テリー副理事長、プラ

ジル太鼓協会の島田オル

ランド会長などがその中

で感謝の言葉を述べた。

西本氏は、「希望の家」の上原

